

乗って出かけてみませんか

みんなで育て支える

コミュニティバス



レターバスの運行開始から3年8カ月が経過し、多くの市民の皆さんに広く知ってもらえるようになりました。平成26年4月には累計利用者数が**20万人**を突破!! 延べ走行距離は**40万キロメートル**(地球約10周)を超えました。これからも、市民の日常生活の移動手段としてガンバリますので応援よろしくをお願いします。

レターバスの増便や安定運行のためには車両が必要

レターバスの路線は環状線で、所要時間は1周約1時間30分かかります。現在の運行ダイヤは約2時間間隔です。バス乗務員の休憩などを考えると、これ以上の昼間の便の増便は困難です。

また、バスの法定耐用年数は5年であり、今後、故障の発生頻度が多くなるのが予想されます。車両点検や故障などの場合は代替車両にて運行していますが、ラッピング車両ではないため見た目が分かりにくいとの意見や、ノンステップバス(乗降口に階段のない超低床のバス)ではないため車いすでの乗車ができないなど、利便性が低下してまいります。

これらのことから、増便や安定した運行のためには車両を増やすことが必要になります。



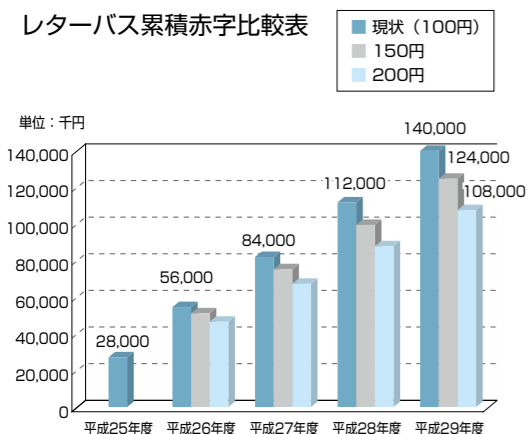
コミュニティバスの運賃改正が必要?

レターバスの運行委託料(いわゆる運行赤字)は年間約2,800万円です。これ以上の運行赤字への支出は抑えなければなりません。安定した運行のため車両を購入する場合は1台約1,700万円の費用がかかります。

左の図は、運賃改定した場合のレターバスの累積赤字見込み額を比べたものです。平成29年度を見ると、運賃を150円にした場合は1,600万円、運賃を200円にした場合は3,200万円の赤字が減ります。

コミュニティバスの維持について、中長期的に考えると運賃改正が必要と考えられます。また、運行赤字への支出を抑えられれば、他の住民サービスなどに使うこともできます。

レターバス累積赤字比較表



コミュニティバスの紹介

レターバス

辻久保を起終点(左右回り2台で運行)として市内を環状運行しています。
【毎日運行】平日 6便/日
土日祝 5便/日



乗り合いタクシー

合生・上生線
再春荘病院と孔子公園(高江)を起終点として、運行日〔火・木・土〕1日往路1便、復路2便運行

合生・御代志線
黒松公民館と再春荘病院を起終点として、運行日〔火・木・土〕1日2往復運行

後川辺線
孔子公園と飯高山を起終点として、運行日〔火・木・土〕1日2往復運行

※予約型乗り合いタクシー2路線運行しています。(野々島・上生地区⇄植木・泗水方面行き)

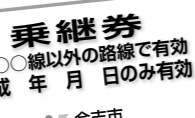
循環バス

須屋線
みずき台と再春荘病院を起終点として、運行日〔火・木・土〕1日2往復運行

日向・新迫線
日向地区とユーパレス弁天を起終点として、運行日〔火・木・土〕1日2往復運行

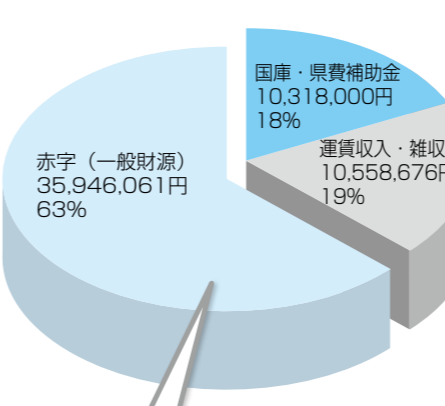
- 運行ルートなどの詳細は、ガイドマップをご覧になるか、企画課へお問い合わせください。市ホームページにも掲載しています。
- 運行ダイヤについて、交通状況などにより遅れる場合があります。

のりつぎけん
「乗継券」で便利!!!
コミュニティバスの乗り継ぎをされる場合は、降車の際、乗務員に申し出てください。乗継券を発行します。(同一路線での乗継券の使用はできません)



平成25年度コミュニティバス 運行経費財源内訳

運行経費(見込額)合計 56,945,137円



市民1人当たり年間負担額 **722円**
※12歳以上(おとな運賃) 人口数: 49,769人 (平成26年3月31日現在)

安定した運行のために
おとな1人当たり
年間8回乗ってください

コミュニティバスの利用者は増加傾向にありますが、運賃収入だけでは運行経費を賄うことができず、平成25年度の市の予算から運行赤字に補填した金額は約3,600万円でした。とはいえ、市民の日常生活の移動手段を確保するため、簡単にやめることはできません。運行赤字の削減策として、有料広告を掲載して収入を増やす取り組みを実施していますが、比率がもう少しと微々たるものです。市内の中学生以上の人が年間8回以上利用すれば赤字運行ではなくなり、コミュニティバスの安定した運行(維持)につながります。コミュニティバスを育て支えていくためにも、多くの皆さんのご利用をお願いします。

問い合わせ先 企画課 企画広報班(合志庁舎) ☎248-1813